

令和2年度

標準学力調査1学期版の結果概要を
お知らせします

小学校国語科、算数科、
中学校国語科、数学科の結果より

本年度5、6月に、「標準学力調査1学期版」が行われました。

【調査対象】

・小学校2年生から中学校3年生の全児童・生徒。

【調査内容】

・小学校2年生～3年生
国語科と算数科の2教科
・小学校4年生～中学校1年生
国語科、算数科（数学科）、理科、社会科の4教科
・中学校2年生～中学校3年生
国語科、数学科、理科、社会科、英語科の5教科

毎年4月に、「全国学力・学習状況調査」が全国で行われてきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策による休校等が理由で中止となりました。そこで今回は、毎年大山町が取り組んでいる、標準学力調査1学期版の結果についてお知らせします。

この調査で、児童・生徒の学力の全てを見ることが出来るものではありませんが、町内の各学校では、この結果を一つの手がかりとして分析し、成果と課題を明らかにして、今後の教育活動に生かしていこうとしています。

また、大山町教育委員会は、学校の進捗状況を把握しつつ、本調査結果を分析し、検討を行いながら、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

【国語科が全学年で
全国平均を上回る！】

【表1】の国語科平均正答率を見ると、全学年で、全国平均正答率を上回ることができました。表からは読み取れませんが、「国語への関心・意欲・態度」に関する問題と、「書く能力」に関する問題において、正答率が全学年で全国平均正答率を上回っていました。日頃の学校での授業改善の取り組み、家庭学習の手引

きを生かした家庭学習等、成果の表れであると言えます。

また大山町は、乳幼児期から、「ブックスタート、ブックセカンド、ブックサード」の取り組みや各校での朝読書、ボランティアさんによる読み聞かせ等があり、文字に触れる機会が多いことも学力の向上に大きく影響していると思われます。小さな頃から目や耳を通して文字に触れることが大切です。

【算数、数学科では約半数の
学年で全国平均を下回る
小学校は「数と計算」領域、
中学校は「図形」領域に課題】

【表2】の大山町の算数、数学科における平均正答率を見ると、全国平均正答率より低い学年がいくつか見られます。

表からは読み取れませんが、小学校では「数と計算」領域の多くの問題で全国平均より低い正答率となりました。授業の中でしっかり計算の意味を理解し、練習問題を解く時間を確保し、確実に定着を図ることが大切になってきます。

中学校では、「図形」領域に課題が見られます。小学校の時から、具体物を使った操作的・作業的な活動をしつかり行い、図形のイメージを

体感して理解していくことが大切です。

家庭学習でも繰り返して、算数、

数学の問題を解き、定着を図ることが大切です。



	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
大山町	85.0	73.2	67.3	70.0	76.6	71.5	73.4	71.4
全国	84.3	70.8	64.6	69.4	71.0	64.4	72.2	69.5
全国との差	0.7	2.4	2.7	0.6	5.6	7.1	1.2	1.9

	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
大山町	82.1	74.7	71.8	65.8	64.7	70.0	54.0	62.2
全国	80.0	73.3	74.2	66.5	65.5	68.6	55.3	61.1
全国との差	2.1	1.4	-2.4	-0.7	-0.8	1.4	-1.3	1.1